



優秀賞

静岡県 株式会社 ABC

「ABCしあわせ基金」事業

知的障害者の社会復帰を促すための



静岡市内で行われた福祉車両の贈呈式。鍵のレプリカが手渡される



1953年(昭和28年)、静岡市横田町に第一号店となるメトロ遊技場(のちABCに改称)を開店した(株)ABC。現在、静岡県に33店、山梨県に5店(ともに2008年開店予定の各1店舗を含む)を構え、中部地方を代表するパチンコホールチェーンとなっている。

ABCでは、2003年(平成15年)の創業50周年を契機に、地域の人々に愛される企業作りをモットーとして地域社会への貢献活動をスタートさせた。その第一歩となったのは、静岡県で開催された「わかふじ国体」および「わかふじ大会(全国障害者スポーツ大会)」への500万円の寄付だった。

さらに同年、静岡県社会福祉協議会に「ABCしあわせ基金」を設立するため、設立資金として1,000万円を寄付。以来、毎年継続して、基金積み増しのための寄付を行っ



ABC代表取締役社長
富田直樹さん



ABC総務部部长
志村 渡さん

福祉車両の贈呈と継続的な貢献活動



ている。「ABCしあわせ基金」の主たる事業は、知的障害者の職場への送迎やレクリエーション活動を支援し、知的障害者の社会復帰を促すための福祉車両の寄贈である。

毎年12月から2月にかけて、県社会福祉協議会の広報を通じて福祉車両の寄贈を希望する県下の知的障害者施設を公募し、県社会福祉協議会、大学教授、ABC富田直樹社長などからなる「ABCしあわせ基金運営委員会」で審査のうえ、寄贈先を決定。毎年、6月初旬に、県福祉会館において贈呈式を行っている。

平成19年度の福祉車両公募に応募したのは600施設で、現在までの累計では1,500施設に上っている。19年度は8台の福祉車両を贈呈したが、これまでの累計は25施設、車両25台となっている。事業に対する社会的認知度が上昇するとともに、知的障害者施設、NPOなどの関係機関・団体から活動の継続を望む声が多く寄せられ、年々、応募してくる施設が増加している。平成18年には活動の継続性や重要性が認められ、静岡県知事から感謝状が贈られている。

「単純にお金を寄付して終わりというのではなく、形に残るものを通じて社会貢献をしたいと考え、福祉車両の寄贈事業となりました。知的障害者施設の方々の生の声を

聞いたり、社会福祉協議会の要望を反映させたりしながら、今後も、この活動を続けていきたいと思っています。そのためにも、厳しい状況の中でも本業での業績をしっかりと上げていくことが何よりのポイントです」

と、富田直樹社長。今回の受賞は、社員の社会貢献活動に対する認識の向上や、啓蒙といった点でも役立つと話す。

ABCでは「ABCしあわせ基金」の福祉車両寄贈のほかにも、在宅福祉事業を実施するNPOなどへの活動振興助成を県社会福祉協議会を通じて行ったり、企業メセナとして音楽コンサートへの支援なども行い、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。さらに、継続的な取り組みということでは、日本テレビ系列の『24時間テレビ』の募金活動に14年連続で参加している。全社員がキャンペーンTシャツを着用し、各店店頭で来店客に募金を呼びかけるもので、昨年は7,510,629円を静岡と山梨のテレビ局へ寄贈した。これまでの募金総額は4,000万円を超えているという。来店客の中には出玉の千両箱を丸ごと1箱提供する方もいるそうで、それもABCの長年にわたる熱心な募金活動が、地域の方々に浸透している証明といえるかもしれない。

「社員には研修会や社内報を通じて、機会があるたびに社会貢献の大切さを啓蒙し、参加意識を高めるような努力をしています。これからもさまざまな活動を通じ、パチンコホールのイメージアップにつなげていきたい」

寄付活動の内容を拡げる意味でも、今年度以降、地球温暖化防止活動推進センターへの寄付も行っていくという。ABCでは、社会貢献が、もはや業務のひとつとして定着しつつあるようだ。



14年間続けている「24時間テレビ」の募金活動